



山梨に市民コミュニティ財団を・・・

市民コミュニティ財団 設立のためのアクション

<https://don.dd-yamanashi.org/>

市民

財団設立拠出金を市民から集める。市民が寄付等を通じて、資金循環に参画できる。

コミュニティ

特定地域を事業対象として捉え、コミュニティ成長・開発のリーダーシップを発揮する。

財団

公益税制を活用して、寄付等を募り、資金仲介する仕組み、地域の資産形成を行う。

コミュニティ財団とは

ー地域の新たな受け皿の一つにー



個人財団（プライベート財団）

個人で寄付して財団を作る



企業財団

会社で寄付して財団を作る



外郭団体

行政が出捐して財団を作る



コミュニティ財団（地域財団）

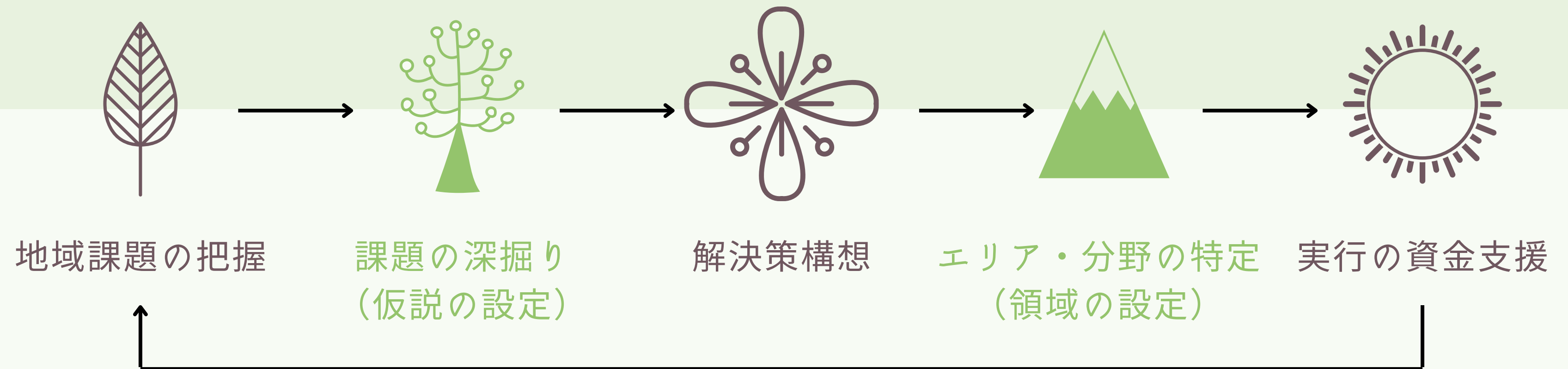
地域の様々な人が寄付して財団を作る

地域のための民間の資源循環と活用のための機能

ー自分たちの手で自分たちのまちをよくするための仕組みー

コミュニティ成長の装置

コミュニティ財団の役割



市民目線での地域戦略を実現

ー財団とPO（プログラム・オフィサー）の存在意義ー

コミュニティ財団の可能性

－無いと困る山梨の地域事情と近隣環境－

緊急時の民間資金

地震や大雨などの災害時に、県内各地の災害時対応の選択肢の一つだけでなく、発災直後と復興時期の隙間を埋めるような支援を担う。

域外への資金流出の抑止（域内循環）

相続時における資産流出率が山梨は15%以上20%未満の地域になり、「遺贈寄付」などの受け皿が無いことで、資金が県外流出している。

多様な資金の地域での活用

寄付以外にも休眠預金活用やふるさと納税、クラウドファンディングなど、市民の意思が地域を支える仕組みなど、多様な地域活用を実現。

コレクティブインパクトの促進

多様な人に繋がり続けることや、適度に必要な声掛け、継続が大変なアイドリリング部分を担うことで、市民が必要な時に利用できる。

空白地域であることの実害



成長仕組みを作っていく

休眠預金 活用事業

後発の強みを生かして



現在、休眠預金活用事業の実行団体として、全国コミュニティ財団協会の伴奏支援を受けながら、2025年度中の財団設立を目指しています。

山梨県の現状として、自然発生的に市民コミュニティ財団が生まれないという事実を正面から受け止め、足りない部分は県外からの力を頼らせてもらいながら、子どもたちに何を残すことができるのかを日々考え続けています。

また財団は設立がゴールではありません。設立後に始まる助成プログラム実施など、継続的な寄付集めや、多様な連携の維持・向上が不可欠です。